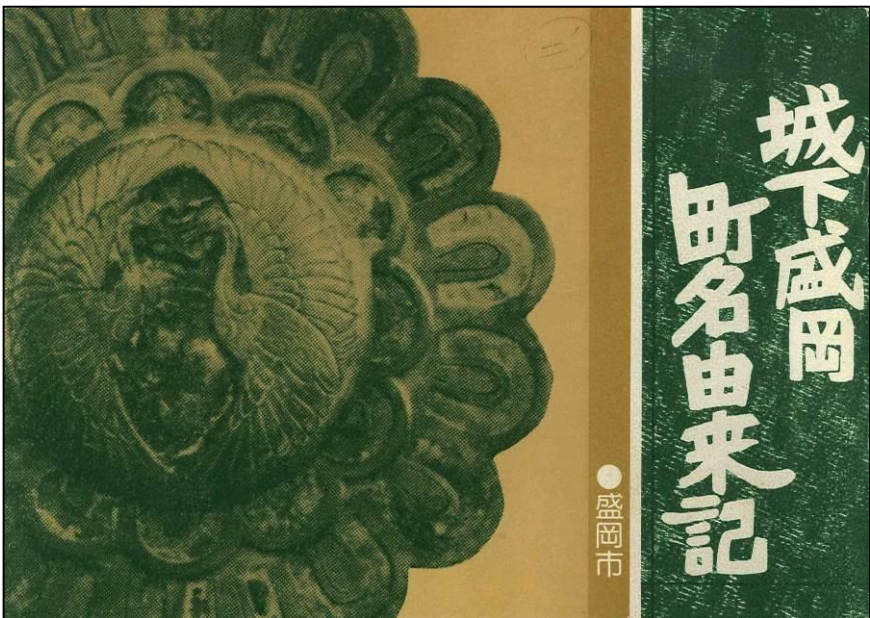


城下盛岡町名由来記（改訂版）



（昭和 54(1979)年発行の由来記の表紙）

※ これは、昭和五十四（一九七九）年に「あすを築く盛岡市民運動実践協議会」が発行（編集 盛岡市）した「城下盛岡町名由来記」の内容について、市が再調査の上、説明文等を訂正し、改訂版として作成したものです。

盛岡市

はじめに

盛岡のまちづくりは、慶長三（一五九八）年の盛岡城の築城と、お城を中心に城下町が開かれたことに始まります。その後、本市は県都として政治・経済などの中心的役割を担い、今日では商業・業務などの都市機能が集積する近代的な都市として発達し、まちの姿も大きく変貌を遂げました。

しかし、明治時代に城郭は取り壊されたものの、まちづくりの中心には常にお城があり、地域の人々の手で磨かれてきた城下町盛岡ならではの魅力が多くの人々の心を引き付けてきました。

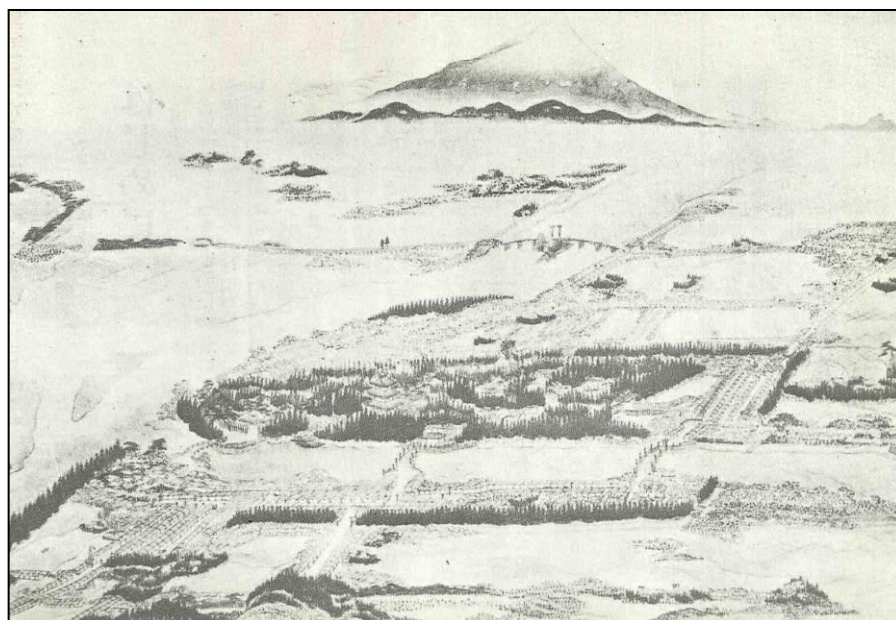
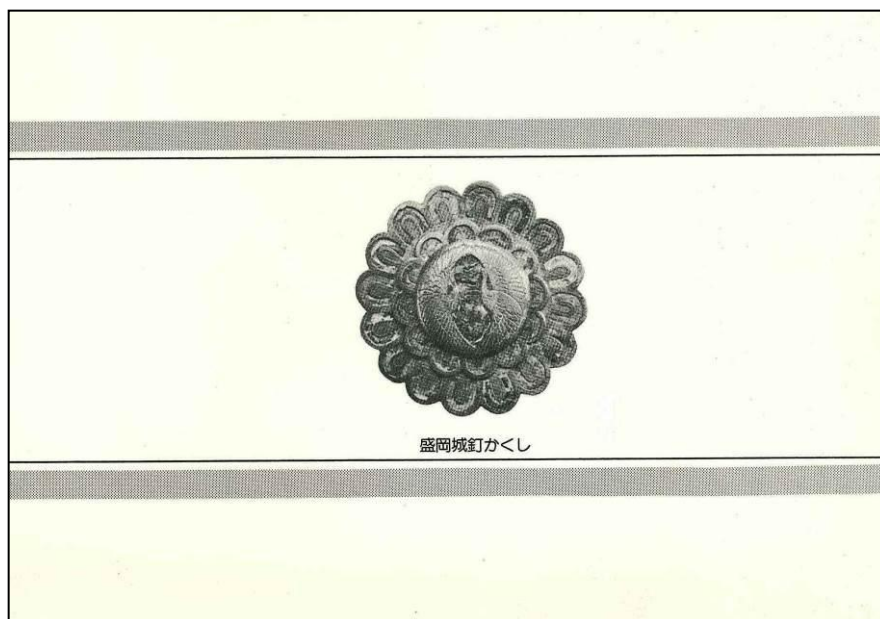
「地名は土地に刻まれた言葉」ともいわれます。

城下町盛岡においても、その歴史を今に伝える上で旧町名はとても重要な役割を果たすことから、「あすを築く盛岡市民運動実践協議会」では、昭和五十四（一九七九年）に「城下盛岡町名由来記」を発行（編集 盛岡市）しましたが、それから三十年余りが経過したこともあり、市ではその内容について、再調査の上、説明文等を訂正し、改訂版を作成することとしました。

この「城下盛岡町名由来記（改訂版）」が、その由来や歴史を文化的遺産として、後世に伝えていく一助となれば幸いです。

平成二十二年二月

盛岡市長 谷藤 裕明

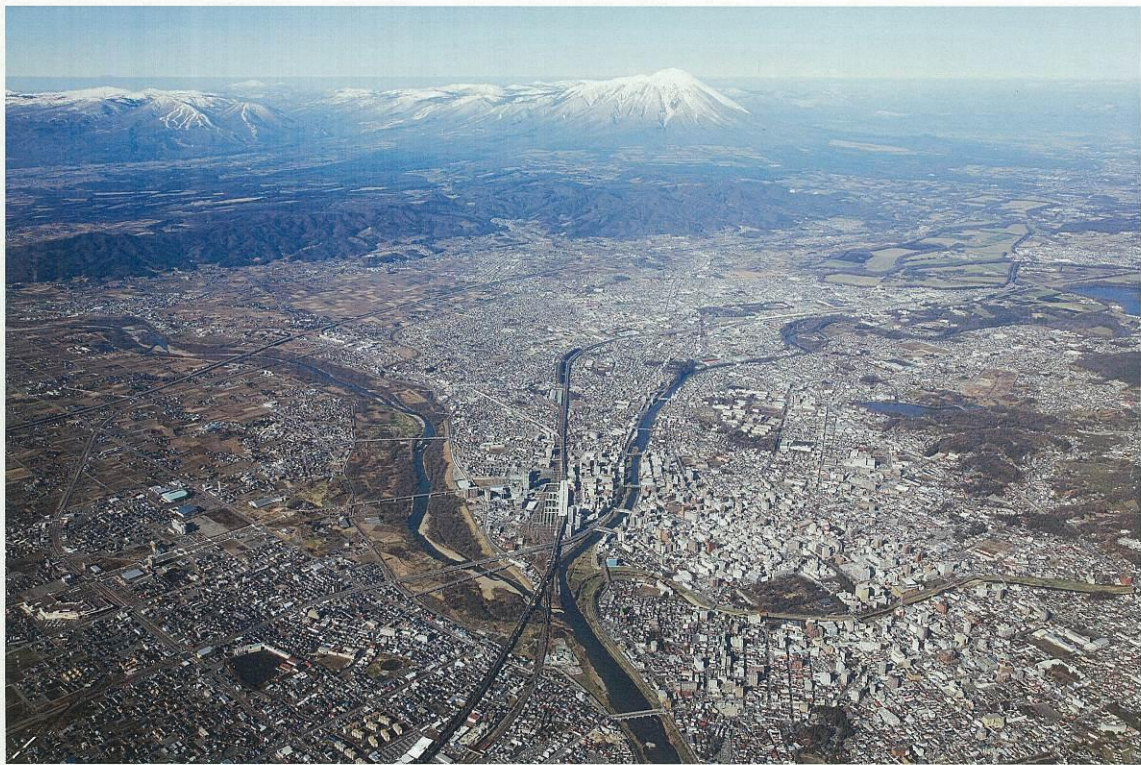


▲城下町のころ

(昭和 54(1979)年発行の由来記に掲載)



(昭和 54(1979)年)



(平成 19(2007)年 写真提供：国土交通省)

▲盛岡市街全景

城下盛岡町名由来記・目次

〔各写真の「昭和五十四（一九七九年）」は、「当時の由来記に掲載」の意です。各略図は、概ねの範囲を示すもので、厳密な境界を示すものではありません。〕

旧町名		町名由来設置場所	ページ
内丸	内丸十一番地内（県公会堂前）	1	
日影門外小路	中央通一丁目六番地内（日影門緑地内）	2	
仁王小路	大通三丁目八番地内（桜城小学校正門横）（※一時撤去中）	3	
紺屋町、鍛冶町、紙町	紺屋町四番二十号（菊の司酒蔵前）（※一時撤去中）	4	
本町かいわい	本町通一丁目九番三十号（盛岡信用金庫本町支店駐車場内）	5	
上小路	茶畑二丁目八番二十五号	6	
三戸町	本町通三丁目十五番地内（岩手医大アパート前）	7	
上田三小路	上田一丁目二十番四十四号（岩大農学部通用門前通）	8	
上田組町	上田二丁目六番六号	9	
馬場小路かいわい	馬場町六番地内（駐車場内）	10	
馬町	清水町一番九号（馬町会館前）	11	
穀町、新穀町	南大通二丁目七番地内（東北銀行南大通支店前）	12	
鉦屋町	鉦屋町五番二十七号	13	
仙北町、青物町	仙北一丁目十三番地内（徳清、明治橋側の地）（※一時撤去中）	14	
平山小路、帷子小路、新山小路	中央通三丁目六番地内（中央児童公園内）	15	
加賀野	加賀野一丁目三番地内（川留稲荷神社境内）	16	
大沢川原小路	大沢川原三丁目五番地内（旧宣教師館前）	17	
八日町、四ツ家町	本町通二丁目十一番地内（駐車場内）	18	
呉服町、六日町	中ノ橋通一丁目一番地内（啄木・賢治青春館前）	19	
山岸町、御弓町	山岸一丁目五番二号（岩手銀行山岸支店前）（※一時撤去中）	20	
材木町、茅町	材木町六番地内（盛岡信用金庫材木町支店前）	21	
長町	長田町十番地内（長田町地区コミュニティ消防センター前）	22	
下小路	愛宕町十四番地内（中央公民館前）	23	
萱手町	中ノ橋通一丁目八番地内（浅沼醤油店前）	24	
肴町、生姜町	肴町五番一号（みかわやみゆき館横）	25	
八幡町、片原	八幡町十三番地内（八幡宮境内前）	26	
館差小路、十三日町	肴町十一番三十八号（※一時撤去中）	27	